

在内地及び在内地外内地人口の普通動態率

館 稔

(厚生省 人口問題研究所)

1) 目的 A) 同一民族の人口現象が自然的・社會的環境の差異によつて蒙る影響の研究は、社會生物學的見地から重要な課題の一である。然るに自然的・社會的環境の相異は、内地人にとつて、内地と内地外との間に於て特に著しい。この課題の研究は在内地内地人の人口動態と、在内地外内地人のそれとの比較に出発することが便利である。その第一着手として明治 32 年—大正 13 年間に於ける在内地内地人人口の普通動態率と在内地外内地人人口のそれとを累年に算定してみたからこれを速報する。従つて本稿は課題に對して極めて初序的な微細な一資料に過ぎぬ。B) この課題は東亞共榮圈建設の指導民族配置方策に関する政治的要求の大なる問題の一である。

2) 方法 A) 内地現在内地人人口は明治 5 年以降、推計内地現在内地人口を採る¹⁾。B) 内地現在内地人口の動態は現在地調に届洩を加算補正したるものを用ふ(註掲書 46-47 頁)。C) 内地外現在内地人口は註掲書(頁 52-53)に據る。外地については、明治 43 年以降朝鮮を、同 39 年以降樺太を含む。D) 内地外現在内地人口の動態は届洩を加算補正したる註掲書(57 頁所載)を用ふ。E) 算法は通例の通り。

3) 結果 表 1 の通り。A) 普通出生率— a) 在内地の出生率に較べて在内地外の出生率は、大正 5 年以降同等、若しくはやや上位を示してゐる。b) 然しこれは直ちに在内地に比して在外地の出産力が優れてゐることを示してゐない。兩者の間には著しき男女年齢別配偶關係別構成の差異がある。在内地外の構成の特色の一は妊孕年齢、生産年齢人口の割合が著しく多く、普通出生率を高めるが如く働いてゐる。性比は在内地外に

1) 内閣統計局：明治 5 年以降我國の人口。昭和 5 年。

表 1

年次	在内地内地人口			在内地外内地人口		
	出生率	死亡率	自然增加率	出生率	死亡率	自然增加率
	%	%	%	%	%	%
明治32	32.82	21.60	11.22	14.02	25.54	- 11.52
33	33.51	20.89	12.62	15.98	30.82	- 14.84
34	35.10	20.98	14.12	19.30	21.58	- 2.28
35	34.91	21.47	13.44	20.56	20.45	0.11
36	34.08	20.56	13.52	24.35	17.43	6.92
37	32.52	21.78	10.74	25.13	41.18	- 16.05
38	32.53	22.47	10.06	22.63	27.85	- 5.22
39	31.05	20.44	10.61	18.12	20.25	- 2.13
40	35.54	21.61	13.93	20.49	18.75	1.74
41	36.15	21.61	14.54	21.37	17.41	3.96
42	36.37	22.62	13.75	24.37	16.40	7.97
43	36.23	21.77	14.46	25.66	17.13	8.53
44	36.53	21.06	15.47	27.66	15.78	11.88
大正 1	35.93	20.65	15.28	30.87	17.43	13.44
2	35.77	20.17	15.60	31.29	16.47	14.82
3	36.18	21.32	14.86	33.03	18.25	14.78
4	35.49	20.87	14.62	34.23	16.84	17.39
5	35.02	22.35	12.67	35.40	17.72	17.68
6	34.79	22.32	12.47	35.27	17.32	17.95
7	33.91	27.45	6.46	34.62	21.51	13.11
8	33.61	23.45	10.16	32.63	20.43	12.25
9	37.94	25.80	12.14	35.08	19.92	15.16
10	36.91	23.12	13.79	37.05	15.37	21.68
11	36.22	22.82	13.40	39.05	16.36	22.69
12	37.17	23.52	13.65	37.66	15.87	21.79
13	35.90	21.70	14.20	33.14	16.64	21.50

表 2

(女=100)

年次	内地外内地人口性比
明治32	296.83
33	319.65
34	286.16
35	255.16
36	251.41
37	298.16
38	253.23
39	233.09
40	227.33
41	219.23
42	199.04
43	183.11
44	169.50
大正 1	158.50
2	153.26
3	148.36
4	143.44
5	141.55
6	140.93
7	137.31
8	137.97
9	134.49
10	132.45
11	131.00
12	129.68
13	123.37

於て著しく不均衡であつて、出生率を低めるが如く働いてゐる²⁾。c) 在内地の出生率は變動の幅が狭い(最高 38 - 最低 31)。然るに在内地外に於ては大である(最高 39 - 最低 14)。在内地外について急角度の出生率上昇が全期間を通じて見られることは極めて顯著なる特色である。その原因は種々あり得るが、性比の均衡化が主因の一と見られる(表 2)。在内地外の出生率と性比との相関係数を求めると、i) 性比に對して出生率を 1 年早めた場合 $r = -0.89$, ii) 時差 0 の場合 $r = -0.92$, iii) 性比に對して出生率を 1 年遅らせた場合 $r = -0.93$ 。在内地外の性比の顯著なる均衡化は、性比の比較的良好な在外地が在内地外中に占める割合を擴大したことに由ることと少くない。B) 普通死亡率— a) 明治 39 年以降、在内地外の死亡率は在内地に比して低い。上記の人口構成の差異が在内地外死亡率を引下げるが如く働いてゐる。b) この間、在内地死亡率の改善は殆ど認められないが、在内地外についてはやや顯著なるを認め得る。C) 普通自然増加率— a) 大正 4 年以降、出生率高く死亡率低き在内地外の自然増加率は在内地に比し著しく高い。b) 出生率著しく低く死亡率の高かつた明治 40 年以前の在内地外の自然増加率は潰滅的であつたが、その後の上昇は著しきものがある。D) 表 1 所掲の在内地の動態率は一般に用ひられる動態率³⁾とは異つてゐる。2) 方法に於て説明した通り、この數字は分母子共に補正せられてゐるからである。言ふまでもなくこの方が合理的である。

(受附：昭和 17 年 4 月 15 日)

- 2) 人口問題研究所：東亞共榮圈民族人口再配分計畫資料。第 6 輯，昭和 17 年 3 月。
- 3) 人口問題研究所：人口統計要覽。昭和 15 年，19 頁。